

第44回児童生徒 読書感想文コンクール

児童生徒読書感想文コンクールに、多くの優秀な作品が寄せられました。
先月に引き続き、最優秀作品を紹介します。

■小学校5年生の部 最優秀賞 後悔しないで言えたら

弟子屈小学校 浜崎 乃々菓さん



自分が後悔しないで、言いたいことを言える日はいつ来るのでしょうか。私は、この「初恋の絵本」という本を読んで、人それぞれ言いたかったことが言えなくて後悔していることがあると知りました。私もぎゅとたぐさんの後悔をしていると思います。

このお話は、美術部副部長の美桜と映画のスター春輝が、言いたかったことを伝えられず後悔します。そして、春輝は後悔したまま何も言えずに高校を卒業し、アメリカに行ってしまう。7年後に再会した時、初めて後悔せずに自分の気持ちを素直に言えたのです。二人には、様々な後悔がありました。中でも美桜は、引っこみ思案な性格で春輝のじゃまをしてはいけなさと自分の想いを言い出せないうでいました。私は、自分が美桜と似ていると思います。私は、決して引っこみ思案な性格ではありませんが、私も自分の気持ちを言えないことがたくさんあります。そんな自分がとてもいやでした。美桜の気持ちも、私と同じだったのかも知れません。いつも相手の話ばかり聞き、自分の気持ちをひそめてきたのは、がんばっている人のことをじゃましてはいけないという美桜のやさし

さだったように思います。そんな美桜を変えたのは、二人の友人との楽しかった体験や話の積み重ねであり、自分の気持ちを言い出したことで後悔せずに思いをありのまま出すことができたのでしよう。

私は、自分が言えないことがあるとすぐに不機嫌になって人に当たってしまいます。でも美桜は気に入らないからといって、人を責めるひきょうなことはしませんでした。それどころか何かをたのまれた時に、美桜は、やりたくないにやるというやさしさがありません。私は、こんなやさしさを最後まで自分の気持ちをおしこころしているのはまちがっているのではないかと思いました。美桜は、自分の気持ちを同じように伝えられないでいる人が他にもいると思っていたのかも知れません。自分の他にも苦しんでいる人やつらい人、後悔している人などたくさんいる人が必死に生きています。ことを知ったのだと思います。そして、たぐさんの人に対して思いやりをもって、それがどれだけ気持ちがいいものであるか、その行為によってどんなふうになるか、感じるのかをいっぱい体験してきたのだと思います。だからこそ、自分の後悔も人の後悔と同じように受け止めることができたんだと思います。



■小学校6年生の部 最優秀賞 わたし獣医になりますに出会って

川湯小学校 大村 紫苑さん

私がこの本を選んだきっかけは、動物が好きで、将来獣医になりたいと思っていました。今まで何冊も動物が出てくる本を読みました。このお話は自分が本当に体験しているかのように引き込まれました。私が印象に残っている場面は、主人公のシューコさんが子供の頃からの夢をかなえて、アメリカまで行って、本当に獣医になったという場面です。夢をかなえるためにはとても大変だと思いが、私はこの場面を読んで、私もシューコさんの様に努力しながら夢がかなえられる様にならばいいなと思いました。この本のあらすじは、シューコさんが小さい頃に飼っていた犬の「エリカ」とリスの「クッピー」が病気で亡くなってしまいます。

死んでしまうまで病気に気付けなかった事をずっと後悔し、これからは他の色々な動物達を救いたいと強く思うのです。そこで獣医になるとちかっとなぐさんの困難をのここえて夢をかなえたというお話です。

と思います。だから後悔せずに言いたいことを言った方がいいと思います。私は後悔しないで自分の気持ちを相手に伝えていきます。もし、相手がききすぎそうなのは言わず、美桜のように少し気を使いながら、みんなが後悔しないように小さな信頼を一つ一つ積み重ねて生きていこうと思います。

書名 『告白予行練習 初恋の絵本』
藤谷 燈子 著

(寸評) 「後悔しないで、言いたいことを言える日はいつ来るのでしょうか。」という書き出しの一文がとても印象的でした。物語の人物の気持ちを想像するだけでなく、自分の経験や考えを絡めて、まとまりのある感想文になっていました。特に、最後の「みんなが後悔しないように小さな信頼を一つ一つ積み重ねて生きていこうと思います。」という文章に、乃々菓さんの力強さと優しさを感じました。今後の小学校生活が、後悔のない、楽しいものになる事を祈っています。

そのほかの最優秀作品についても、来月以降順次紹介していきます。
※児童の学年は、コンクールが行われた平成30年度当時のものです。

私の家でも猫を飼っています。今は元気ですが、昔病気がかかってしまい、とてもつらそうでした。その時私は、『死んでしまったらどうしよう』『私に出来る事はないのかな』と、とてもなやんでしまいました。結果的には、動物病院に連れて行って病気を見つけてもらい、手術をして元気になることが出来ました。

今ではすっかり元気になり、もっと長生きしてほしいと思っています。それと同時に、他の家で飼っている動物も、もし病気で苦しんでいたら病気から救いたいという思いが強くなりました。そこから私は獣医になりたいと思うようになりました。その気持ちがシューコさんと同じだったので、とてもうれしかったです。

私と似た様な思いで、たぐさん努力して、大変でしたががんばって獣医という夢をかなえる事が出来たので、自分もがんばって努力すれば夢はかなえられるのでは、と思ったからです。私は、この本に出会って、今までよりもっと獣医になりたいという気持ちが大きくなりました。

夢をかなえてたぐさんの動物を救いたいと強く思いました。そのためには何をしたら良いのか、何をしなければならぬのか色々考えています。夢をかなえるためにこれからシューコさんを見習って、もっともっと努力して、あらゆることでもがんばっていきたくと思っています。

書名 『わたし、獣医になりますー』
井上 夕香 著

(寸評) 将来の夢と繋がりのある本をたぐさん読んできた中で、この本は紫苑さんにとって特別な一冊になったのでしようね。登場人物である「シューコ」さんの思いや出来事に自分を重ねながら本の世界に浸るだけでなく、自分の今後に向けた勇気や指針を得ることができたことが伝わります。読書は本との出会いから始まっています。これからも良い本と出会いながら、夢に向かって進むことを応援したくなる、そんな感想文でした。

